

認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指して

○福岡市認知症フレンドリーセンターのご紹介

認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指す「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」の拠点施設として2023年9月にオープン。福岡市認知症フレンドリーセンターは、認知症本人やその家族に限らず、地域の方、医療・介護・福祉関係者や認知症に興味がある方の誰でも自由に訪れることができる場所です。認知症について学び、認知症本人の視点に立った疑似体験ができることにより、認知症をより身近に感じることができます。また、認知症の方がセンター内に勤務しており、来場者の皆様と交流したりと認知症の方も、ご自身のまわりに認知症の知人がいる方も、これから認知症になるかもしれないと不安を感じている方も福岡で安心して暮らしていけるまちづくりの拠点として様々な活動を行っています。また、英国スターリング大学認知症サービス開発センター(DSDC)より、認知症デザイン認証で最高峰の評価である「ゴールド認証」を受けており、公共施設での受賞は国内初になります。



展示エリア



○認知症フレンドリーシティ・プロジェクトとは

日本では、2025年までに、65歳以上の高齢者の約8人に1人が認知症になると予想されています。こうした中、福岡市は、認知機能が低下しても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症に優しいまちづくりに先駆的に取り組んでいます。

福岡市の「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」は、行政、医療・介護機関、企業、大学、市民が一体となり、認知症に優しいまちをデザインするものです。このプロジェクトには、認知症の方が地域で生き生きと暮らし続けるための戦略、プログラム、インフラが含まれています。

展示エリアは認知症の人の声を反映して、認知症デザインを参考にした製品やサービスを展示しています。日用品からIT機器まで展示しています。よりよい暮らしに役立つヒントに出会える場です。

福岡市認知症フレンドリーセンターの取組について（視察）

福岡市認知症フレンドリーセンターの取組のご紹介

○福岡100プロジェクトについて

福岡市は7年前から人生100年時代に向けて福岡100プロジェクトを政策として掲げ取り組んできました。100歳の方々が健康的に福岡市の中で暮らし続けるために100プロジェクトを掲げようということで旗上げしました。「プロジェクトを100個作るぞ。」と臨んで、現在ではプロジェクト数は有に100を超えています。公式サイト内の福岡100公式では、福岡ゆかりのクリエイターやタレント等、アクティブに活動する多彩な方々の福岡100プロジェクトの体験記やコラムなどを綴っています。

(公式サイト)

[PROJECT | 福岡100 \(fukuoka.1g.jp\)](https://www.fukuoka100.jp/)

○福岡オレンジパートナーズについて

オレンジパートナーズは、企業のコンソーシアム（共同事業体）です。企業は大事なお客様が望む製品、サービスを提供するためには、企業が認知症のことを勉強し、当事者と関わりながら当事者から学んでいます。実際に認知症を有する方から商品開発する時にアドバイスをもらいながら、いろんな商品等を開発しています。認知症になっても自分らしく生きるために何ができるかを認知症の人とその家族、企業・団体、医療・介護・福祉事業者、行政で考え、実際の取組につなげていくことを目指しています。認知症にやさしいまちを描いていくためにはご本人の「声」がとても大切になります。企業に対して「こんなあったらいいな」という意見やアイデアを伝えることなどで、より暮らしやすい社会の共創に活躍いただけます。

○福岡オレンジ人材バンクについて

福岡市では、認知症の人がいきいきと「活躍」できる環境づくりを進めるため、認知症の人だけが参加できる「オレンジ人材バンク」を令和3年6月に設立しました。人材バンクに登録していただくことで、認知症の人の声を取り入れた製品開発への参加や、企業での就労等を支援しています。

○認知症カフェについて

認知症の人や家族の居場所づくりなどのため、認知症カフェの開設を支援しています。



党一浩センター長の講話の様子

○福岡市認知症フレンドリーセンターで実施されている講座等

・認知症の人にもやさしいデザインの講座

認知症の人がストレスなく安心して暮らせる住環境を整えるためには、「認知症の人にもやさしいデザイン」を取り入れることがポイントとなります。センターでは、ご自宅でのサインや色の組み合わせ、照度、家具の配置など、認知症の人にもやさしいデザインを導入する際に必要なポイントを個別にアドバイスされています。ご自宅で安心して生活していくためにぜひ受講してみてください。

・ユマニチュード一般向け講座

認知症の人が安心して暮らしていくためには、認知症の人への適切なサポートが重要です。この際に必要となる、認知症の人に優しさを伝えるコミュニケーションの技術である「ユマニチュード」について、個別の相談をお受けします。

・認知症サポーター養成講座

講座を通じて認知症についての正しい知識を習得し、自分のできる範囲で認知症の人や家族を応援するのが認知症サポーターです。認知症の人やご家族を温かい目で見守る「応援者」を養成する講座を定期的開催されています。(1回/月、90分程度)

・本人ミーティング

認知症の人が集い、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからの暮らしなどを一緒に話し合う「本人ミーティング」を開催されています。ご家族の同伴も可能で本人グループ、家族グループに分かれて話し合います。本人ミーティングは、認知症の人の視点を重視したやさしい地域づくりを具体的に進めていくための方法です。

施設内視察及びAR体験について（視察）

AR体験 ※1

認知症AR体験とは、アルツハイマー型を中心とした認知症の一般的な視覚症状の要素を、AR(拡張現実)で再現したものです。体験を通して、認知症の人が感じる困難や不安などを理解できます。これまでの対応の振り返りや今後の対応の気づきにつながると同時に、空間内の動線や家具・備品配置等の環境整備のヒントを得ることができます。認知症本人の視点に立って、行動を理解することができます。



あっ、トイレの表示位置が認知症の方が認識できる目線の高さになっている！

ステップ3



これが認知症の方の視野なんだ。認知症は視野が狭くなるので空間認識が困難になるのか。横から話掛けられても誰だか分からない。

ステップ2



あれ？全然見えない。一步を踏み出すのが怖い。

ステップ1



よし、やるぞ。

ステップ4



近くに行くまで何があるか認識できない。これは危ない。

※1 ARは拡張現実のことで現実世界を立体的に読み取り、仮想的に拡張する技術のことです。